

●サーツII建築物の長寿命化シンポジウム

NPO法人建築技術支援協会(Psats サーツ)は2月24日、シンポジウム「建築物の長寿命化―建築機能の再生・向上を目指して」を東京都千代田区の3331Arts Chiyoda(旧千代田区立練成中学校)で開き、「都市を構成する建築物」に着目し、コンバージョンによる地域活性化などといった課題への対応について、建築の専門家らが見解を交わした。



が(その建物で)何を展 示するための場(介護、環 境、人材育成関連など) 開いたのが前提。コ ンバージョンが第一義で はない」と指摘。つくっ 象にすべきとの見解を示 した。

サーツ代表理事で東京 複合施設として再生し たこの建物(3331 Arts Chiyoda)も廃校になつてから 何年も使われなかった」 向上を目指して」をテ ーマに基調講演した。そ と、将来に向けた建築の 意図を交わした。

大学教授の松村秀一氏 写真」は、「建築物の長 寿命化―建築機能の再生 向上を目指して」をテ ーマに基調講演した。そ と、将来に向けた建築の 意図を交わした。

「転用」で地域活性化を

の中で、「日本の街は建 築物(ストック)が余っ ている。長寿命化に取り 組む以前に、経済に活 力がなくなり、壊されな なる時代が来る。実際 だが、そうではない。街 さらには、「その時、重 要な再生を通じた地域 活性化になるのは『利 用の構想の提案』など について各 専門家話提供し、パ ネルディスカッション 提案。「ハコの産業」 閉会后、参加者が会場 室、スタジオ、アトリ などがあ